



## 平成26年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社コネクトホールディングス

コード番号 3647 URL <http://connect-hd.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO) (氏名) 長倉統己

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者(CFO) (氏名) 矢野浩司

TEL 03-5439-6580

四半期報告書提出予定日 平成26年7月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年8月期第3四半期の連結業績(平成25年9月1日～平成26年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第3四半期	1,140	2.6	25	△23.4	16	△33.4	3	△81.3
25年8月期第3四半期	1,110	△20.1	33	—	24	—	20	—

(注)包括利益 26年8月期第3四半期 3百万円 (△81.3%) 25年8月期第3四半期 20百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第3四半期	0.07	—
25年8月期第3四半期	0.39	0.39

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年8月期第3四半期	828	479	57.3	8.64
25年8月期	660	401	60.8	7.45

(参考)自己資本 26年8月期第3四半期 475百万円 25年8月期 401百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年8月期	—	0.00	—	—	—
26年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年8月期の連結業績予想(平成25年9月1日～平成26年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,000	37.4	100	150.0	82	202.0	77	84.8	1.44

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年8月期3Q	55,008,601 株	25年8月期	53,848,601 株
② 期末自己株式数	26年8月期3Q	— 株	25年8月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年8月期3Q	54,447,044 株	25年8月期3Q	51,945,436 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却を目指した財政金融政策の期待感によって緩やかな景気回復の兆しが見られるものの、欧州経済の長期低迷、新興国経済の景気減速等が懸念される等、企業を取り巻く環境は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境といたしましては、当社の100%子会社である株式会社SBY（以下、SBY）が展開するビジネスアライアンス事業とコンセプトマーケティングショップ事業は、C2（13～19歳）及びF1（20～34歳）層の女性を主にターゲットとしております。当市場の多くは独身者であり時間のゆとりがあること、また、家族世帯者より自由に消費に使える金額が多いため、景気悪化の影響を受けにくく、かつ流行に敏感な市場でもあります。

このような環境の中、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高は1,140百万円（前年同四半期比2.6%増）、経常利益は16百万円（前年同四半期比33.4%減）、四半期純利益は3百万円（前年同四半期比81.3%減）となりました。前期から引き続き、SBYが展開する事業が安定した収益を確保していることと、本社移転に伴う継続的なコスト削減の実施により、販管費の削減に努めてまいりましたが、原価率の高い商品の売上が増加したことにより売上原価が増加し、また、本社移転により事務所移転費用を計上したことにより一過性の費用が大幅に増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの概況は以下のとおりであります。

#### (ビジネスアライアンス事業)

ビジネスアライアンス事業におきましては、独自に収集分析したトレンド情報を活用し、C2及びF1層の女性向け市場への販路拡大などのニーズがある企業様を総合的にプロデュースするプラットフォームを提供しております。

今期よりビジネスアライアンス事業は、「Society（社会）、Beauty（美しさ）、Yell（応援）～ 今日より明日！キレイを楽しむ時間を応援します～」を事業テーマとしておりますが、当第3四半期連結累計期間の主な実績といたしまして、20代後半から50代の現代女性に向けて“僅かな時間で充実した輝きを得ていく習慣”をサポートする、SBYとして初のトータルケアブランド「BIYOU SHUKAN（美容習慣）」を全国のドラッグストア、バラエティストア、大型量販店、化粧品専門店等において4月から展開を開始しました。

矢野経済研究所が発表した「化粧品市場に関する調査結果2013」によると、2012年度のスキンケア市場は前年度比101.0%の1兆596億円となっております。スキンケア市場では1,000円前後の低価格帯化粧品が市場を牽引、前年度実績をクリアしました。1,000円前後の低価格帯化粧品市場では機能性を訴求する製品が人気を集めており、大手制度品メーカーなどの新規参入が相次いでおります。製品カテゴリーとしては引き続き「短時」を訴求した多機能型オールインワンタイプの化粧品が注目を集めています。

さらに、既存のSBY自社ブランド「Diamond Beauty」に代表される「外から美しくする」メイクアップ部門に加え、「体の内から美しくする」インナービューティーラボ部門の展開を開始し、3月には「Slim Life Smoothie（スリムライフ スムージー）」、4月には「Support Life ラクトフェリン」を発売いたしました。

また、SBYが商標登録をしているコスメ総合ブランド「Diamond Beauty」の商品をアジア戦略として台湾・シンガポールの商業施設等へ卸売を行っており、台湾での取扱施設は100店舗超となりました。

この結果、ビジネスアライアンス事業の売上高は695百万円、セグメント利益（営業利益）は174百万円となりました。

#### (コンセプトマーケティングショップ事業)

コンセプトマーケティングショップ事業につきましては、日本を代表する流行最先端都市「渋谷」＝SBY（SHIBUYA）をブランドネームとし、その中核店舗は「アタラシモノ発見☆カフェ」をコンセプトにSHIBUYA109で運営しております。また、SBYではコスメショップ「WoMANiA」を「SBY SHIBUYA109店」及び「WoMANiA梅田オーパ店」にて展開し、当第3四半期連結会計期間末における店舗数は直営店4店舗（渋谷、原宿、阿倍野、梅田）、FC店1店舗（町田）となっております。

同事業は単なる店舗販売事業ではなく、最先端の情報が揃う店舗型の情報発信スペースであり、流行に敏感な女性の心を掴み、夢中にさせる総合エンターテインメントを追求することにより、SBYから生まれた情報・商品がメディアや流通等のインフラに乗り、全国へ/世界へ発信されております。

同事業は、昨年7月に「TOKYO GIRLS COLLECTION（以下、TGC）」を企画運営する株式会社F1メディア（以下、F1メディア社）がもつTGCのブランド力・ノウハウをF1層市場において競争力を相互に補完し、事業のさらなる発展を目指すことを目的とし、F1メディア社と包括的な業務提携契約を締結しております。

両社は海外での展開を目指しておりますが、F1メディア社との相互協力プロジェクトとして、5月にタイのバンコクでエンターテインメントコンテンツを集めたサブカルチャーイベント「Thailand Comic Con 2014（以下、コミコ

ン)に、日本のKAWAIIを代表する企業として出展いたしました。

今回のコミコンへの出展は、重要国策であるクールジャパンの一翼を担うコンテンツとして、「日本のガールズカルチャーを世界へ」をテーマに、経済産業省、放送作家の鈴木おさむ氏、TGCの3者が総力をあげて取り組む「TOKYO GIRLS TOWN (以下、TGT)」プロジェクトの第一弾として、コミコンへのTGTブース出展が決定し、SBYが公式パートナーに選出されたものであります。

当社では、今回の出展を海外戦略を計る上で絶好の機会と認識しており、世界の中でも高水準の経済成長が持続的に見込める東南アジアを最重要地域と位置付けております。東南アジアは、特に「日本のガールズカルチャー」への理解が深く、また世界のファッションブランドが凌ぎを削っている地域であり、経済発展とともにファッションに対する関心が飛躍的に高まっております。

中でもタイは、経済成長著しいASEAN 諸国の中でも特に注目されており、東南アジアのほぼ中央に位置しているため、今後は流通の中心地になる見込みであります。また、生活水準の上昇と美容・衛生意識の高まりを背景に、日用品市場が急速に拡大しており、JETRO (日本貿易振興機構) の調べでは、タイの2012年の実質GDP成長率は6.5%となり、有望な市場となっております。

今回のイベントを主催したKantana Group Public Company Limited. は、タイ証券取引所に上場しているタイ最大のメディア会社であり、タイにおいてメディア/芸能/IT/流通に絶大な影響力を持っているため、SBY としては本イベントを東南アジア諸国へのビジネスの足掛かりとして、国内・海外双方での事業展開に取り組んでまいります。

この結果、コンセプトマーケティングショップ事業の売上高は445百万円、セグメント利益(営業利益)は37百万円となりました。

なお、毎年8月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主様を対象として、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的に保有していただくこと、また、当社の運営する店舗をご利用いただき、当社事業に対するご理解をより一層深めていただくことを目的とする株主優待(商品購入割引優待券)を新設いたしました。

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更し、従来の「サービス事業」を「ビジネスアライアンス事業」と「コンセプトマーケティングショップ事業」に区分しております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から168百万円増加し、828百万円となりました。これは短期貸付金が151百万円増加したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末から89百万円増加し、348百万円となりました。これは有利子負債が72百万円、前受金が15百万円増加したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末から78百万円増加し、479百万円となりました。これは新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ35百万円増加したことなどによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年10月15日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりませんが、修正が必要と判断した場合には、速やかにお知らせいたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に見積実効税率を乗じております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	110,666	77,869
売掛金	78,148	67,610
商品及び製品	103,909	162,746
原材料及び貯蔵品	—	5,594
未収入金	52,031	46,020
短期貸付金	—	150,000
繰延税金資産	18,353	18,353
その他	29,295	61,171
貸倒引当金	△8,915	△8,315
流動資産合計	383,489	581,050
固定資産		
有形固定資産	70,528	65,889
無形固定資産		
のれん	63,861	45,321
その他	16,218	18,582
無形固定資産合計	80,080	63,903
投資その他の資産		
長期未収入金	56,787	44,007
長期貸付金	1,482	2,503
敷金及び保証金	65,498	67,022
繰延税金資産	1,117	1,117
その他	1,890	3,906
貸倒引当金	△629	△508
投資その他の資産合計	126,147	118,048
固定資産合計	276,756	247,841
資産合計	660,246	828,892
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	59,673	71,516
短期借入金	37,000	44,000
1年内返済予定の長期借入金	38,676	51,320
未払金	51,173	33,438
前受金	17,137	33,091
未払法人税等	2,041	3,763
その他	2,692	7,922
流動負債合計	208,393	245,053
固定負債		
長期借入金	48,570	101,859
その他	2,000	2,000

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
固定負債合計	50,570	103,859
負債合計	258,963	348,912
純資産の部		
株主資本		
資本金	381,500	416,514
資本剰余金	387,498	422,513
利益剰余金	△367,716	△363,880
株主資本合計	401,282	475,147
新株予約権	—	4,833
純資産合計	401,282	479,980
負債純資産合計	660,246	828,892

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
売上高	1,110,800	1,140,215
売上原価	498,437	562,402
売上総利益	612,363	577,813
販売費及び一般管理費	579,357	552,534
営業利益	33,005	25,279
営業外収益		
受取利息	334	3,658
貸倒引当金戻入額	2,150	721
設備賃貸料	1,311	—
償却債権取立益	2,600	3,700
その他	1,822	506
営業外収益合計	8,219	8,587
営業外費用		
支払利息	3,340	2,927
支払手数料	11,710	12,200
その他	1,178	2,100
営業外費用合計	16,228	17,228
経常利益	24,995	16,637
特別利益		
関係会社株式売却益	23,328	—
特別利益合計	23,328	—
特別損失		
減損損失	8,393	3,400
事務所移転費用	13,332	7,264
事業整理損	4,025	—
その他	641	86
特別損失合計	26,392	10,750
税金等調整前四半期純利益	21,931	5,886
法人税等	1,417	2,051
少数株主損益調整前四半期純利益	20,514	3,835
四半期純利益	20,514	3,835



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	20,514	3,835
四半期包括利益	20,514	3,835
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,514	3,835

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I. 前第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年5月31日)

平成24年3月6日にエンタテインメント事業を営む株式会社ゲットバック・エンタテインメントの全株式、及び平成24年9月1日にシステムソリューション事業並びに環境エネルギー事業を営む株式会社コネクテクノロジーズの全株式を譲渡したことから、当社グループは、第1四半期連結会計期間より、サービス事業の単一セグメントとなったため、記載を省略しております。

また、第1四半期連結会計期間より、従来の「物販事業」から「サービス事業」へとセグメントの名称を変更しております。なお、当該変更はセグメントの名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

## II. 当第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ビジネスアライアンス事業	コンセプトマーケティングショップ事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	695,181	445,034	1,140,215	—	1,140,215
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	695,181	445,034	1,140,215	—	1,140,215
セグメント利益	174,786	37,274	212,060	△186,781	25,279

(注) 1. セグメント利益の調整額△186,781千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△186,781千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前連結会計年度末においては、サービス事業の単一セグメントでありましたが、第1四半期連結会計期間よりセグメント情報の区分を見直し、従来の単一セグメントから「ビジネスアライアンス事業」、「コンセプトマーケティングショップ事業」に変更しております。なお、変更後の区分方法により作成した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、売上高、売上原価と販売費および一般管理費の金額を遡って正確に抽出することが実務上困難なため、開示を行っておりません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。